



大槌中生に焼き肉を振る舞い交流するボランティア

大槌中生 焼き肉に笑顔

岡山の団体
振る舞う

社団法人岡山経済同友会（事務局岡山市）が主催する「東日本大震災復興支援ボランティア

「ア」の一行は24日、大槌町小槌の大槌中（鈴木利典校長、生徒267人）の仮設校舎を訪れ、全校生徒に焼き肉を振る舞い元気を届けた。

同会メンバーや岡山県内の高校生、大学生ら約90人が訪問。校庭に設置したバーベキューコンロ11台を使って肉や野菜を豪快に焼き、生徒に振る舞った。柏崎瑠奈さん（大槌中2年）は「みんなこの日を楽しみにしていた。楽しくたくさん食べられて感謝でいっぱい」と笑顔を見せた。

ボランティアに参加した高島晴佳さん（興陽高1年）は「がれきはまだまだ片付いてい

ないけど、生徒はみんな明るく元気で驚いた。帰ったら現状を家族や友人に伝えたい」と汗を流した。

ボランティアは、岡山市に本部を置く国際医療援助団体「AMDA」が、震災直後から同町を支援しているこ



とが縁で実現。一行は被災した旧大槌中学校舎や神社の清掃にも取り組んだ。

戦没者の冥福祈る

山田で追悼式

山田町戦没者追悼式は25日、同町八幡町の

町中央公民館大ホールで行われ、遺族らが戦火の犠牲となった676人の冥福を祈った。

町、町戦没者遺族連合会主催。来賓や町内各地区の遺族会員ら約300人が参列した。佐藤信逸町長は「この平和と発展が多くの尊い犠牲の上に成り立っていることを長く後世に語り継がなければいけない」と式辞。

献花し、祭壇に手を合わせる参列者

来賓の追悼の言葉に続いて参列者が祭壇に献花。犠牲となった肉親を思い、恒久平和と東日本大震災からの復興を誓った。同追悼式は昨年、震災の影響で開催されなかった。